

道徳的価値の自覚を深め、生活に生かそうとする児童の育成

～自分のこととして考えを深める話し合い活動の工夫を通して～

特別研修員 道徳 齋藤 こず恵 (小学校教諭)

児童の実態

- 発言に消極的な児童が多い。
- 思いつきや表面的な考えに留まる内容の記述が多い。

実践

教材名「森川君のうわさ」(出典:光文書院)
主題名 かたよらない心 C-(13) 公正、公平、社会正義

導入

自分の経験を伝え合う活動

「仲のよい友達の話は、うわさでも信じてしまうな」

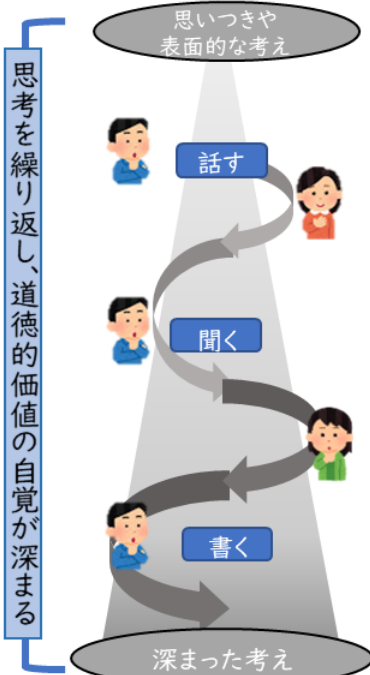
展開

〈中心発問〉

研究上の手立て

思考を繰り返すための
話し合い活動の工夫

- ①児童主体のペア・グループ編成
- ②考えを記述できる場
- ③自分のこととして捉え直すことができる補助発問
- ④十分に確保された活動時間



思いつきや表面的な考え

〈中心発問〉
うわさ話に惑わされて仲間外れを起こさせないためには、一人一人がどうすればよかったですか。

教師

発言しやすく、発話量が増える (①)

うわさはよくないよ。

うわさは流さないようにすればいいと思う。

考えが可視化され、話し合いが促される (②)

うなずきながら聞く。
「うわさを聞いても信じないし、ほかの人に流さない」と書く。



考えを記述できる場

話し合い活動 (15分)

でも、うわさ話って盛り上がるんだよね。

うん。分かる。うわさ話ってなぜか盛り上がっちゃうね。でも、自分のことだったら嫌だな。

間違ってるかもしれないからうわさは止めたほうがいいのではないかな。

自分のこととして捉え直す (③)

〈補助発問〉
うわさを止められないこともあるけれど、なぜだろう。

本当は信じていないけど、話を合わせないと仲間はずれにされてしまうから。

でも、うわさされている子の気持ちも考えたほうがいいと思う。

話し合いを通して、思考が繰り返される (④)

深まった考え

周りの雰囲気に流されないでよく考えて確かめることや、自分の意見を伝えることも大切だね。

終末

道徳的価値の自覚を基に、
自分の生活を振り返る活動

「今までは、周りの雰囲気に流されてしまっていたけれど、本当かどうかよく確かめて、自分の意見を伝えられるようになりたい」

成果

- 発言に積極的になり、全員が発言することができた。
- 自分の経験を振り返り、学習したことを生活の中で生かそうとする記述が増えた。
- 自分のこととして考えを深められたことにより、道徳的価値の自覚を深め、生活に生かそうとする姿が見られた。

課題

- ペア・グループの話し合いの様子を具体的に把握できるよう、発言者と発言内容を机間支援をしながら記録するなどの手立てを講じる必要がある。